

科目No.	ST441	科目名	製品総合管理特論				副題	製品安全対策の基礎知識			
連携機関名	製品評価技術基盤機構	レベル	基礎	教室定員	80	配信定員	10	講義日時	火曜日 18:30~20:30	講義場所	早稲田大学西早稲田キャンパス
科目概要	近年、消費者が使用する製品の安全性が大きく注目を集めている。種々の製品事故が顕在化し、これを受けて消費生活用製品安全法の数回にわたる改正が行われるなど、製品安全政策の見直しが行われた。また、2009年9月1日には事故情報等を一元的に扱うため消費者庁が設立された。製品事故の現状と製品安全政策について具体的事例に基づき分析考察するとともに、今後の事故防止方策や政策のあり方について論じる。										

科目構成	No.	講義名	講義概要	講義日	教室	講師名	所属
製品事故の現状	1	製品事故の動向	製品評価技術基盤機構の事故情報収集調査結果を用い、製品事故動向を分析し考察する。	9月27日	西早稲田 キャンパス 53号館 204教室	長田 敏	製品評価技術基 盤機構
	2	最近の注目事故、原因究明 I	最近実施した燃焼器具、日用品等における特徴的な事故と原因究明の具体的事例を通じて、近年の事故の現状を考察する。	10月4日		篠崎健三	
	3	最近の注目事故、原因究明 II	最近実施した電気製品における特徴的な事故と原因究明の具体的事例を通じて、近年の事故の現状を考察する。	10月11日		川野和弘	
製品事故の防止対策	4	誤使用事故防止 I (事業者の取り組み)	誤使用や不注意によって発生している製品事故について、誤使用防止の観点から、作る側の立場で事故を防止するために配慮すべきことはなにかを考察する。	10月18日		久本誠一	
	5	誤使用事故防止 II (消費者の役割)	誤使用や不注意によって発生している製品事故について、誤使用防止の観点から、使う側の立場で事故を防止するために配慮すべきことはなにかを考察する。	10月25日			
	6	高齢者、子供などの事故	事故にあう可能性の高い高齢者、子供などの配慮や事故の現状と事故防止について考察する。	11月1日		酒井健一	
	7	リスクアセスメント	安全な製品を設計するためのリスクアセスメント手法の現状と今後の課題について考察する。	11月8日			
	8	リコール	日本における消費生活用製品などに関するリコール・回収の現状を分析し、リコール制度、リコールのあり方などについて考察する。	11月15日		山田秀和	
製品安全における法令・制度	9	消費者行政における、国、地方自治体、公的機関の役割	日本の消費者行政(製品安全)の全体像及び政府(消費者庁等)、地方自治体、国民生活センター、製品評価技術基盤機構等の各セクションの役割を述べる。	11月22日		葛谷弘之	
	10	日本の製品安全政策	日本における安全規則(安全四法等)の現状、最近の法律改正について紹介する。	11月29日		長田 敏	
	11	海外における製品安全政策の状況	米国、欧州などではどのように製品安全が確保されているのかについて紹介する。	12月6日			
	12	認定・認証制度	国際ルールとしての認定認証制度とその内外の現状について概観するとともに、製品安全との係りについて論じる。	12月13日		木村 仁	
	13	紛争処理	日本では1995年に製造物責任法が施行されている。これまでの民法と製造物責任法とのルールの違い。民法、製造物責任法、紛争外処理などについて説明する。	12月20日		長田 敏	
	14	化学物質管理政策	内外の化学物質管理政策の現状と今後の動向について概観するとともに、製品安全政策との類似点と相違点について考察する。	1月10日		野口良行 長田 敏	
	15	今後の日本の製品安全政策のあり方	何故、近年製品安全問題がクローズアップされているのかを分析し、今後の製品安全政策の課題や、製品安全のあるべき規制、基準体系について論じる。	1月17日		長田 敏	